

桜峠のはなし

山之上町に「桜峠」という字名あざがあります。場所は蜂屋調整池東側の谷あいです。谷底の幅は約10mで、両側は小高い山に囲まれています。調整池のできる前は、谷底には周辺に住む農家の田んぼがありました。谷底の土地の高い方のため池があり、そこから水を引いて田んぼで米を作っていました。

桜峠の桜は、『さ』と『くら』に分けられるといわれ、『さ』は「狭・小」の意で、『くら』は「谷・岩」の意であるといいます。よって「さくら」とは小さな谷という意味であり、山之上町の桜峠も、こじんまりとした谷あいであることから、よく当てはまると思います。「小さなくら」が転じて「サクラ」となり、後に花の「桜」の字を当てたのではないかと推測されます。



▲「桜峠」(山之上町)



▲「桜峠」の山沿いの道